

気候ネットワーク主催の「未来を守る作文コンクール」では、2021年度から新たにアクション・レポート部門を新設しました。社会を変えるための行動<アクション>を起こし、その過程や結果について報告してもらうものです。

そのために、どんな<アクション>をすればいいのかを、脱炭素社会に変えていくためのアクション・リストとしてまとめました。作文コンクールに応募するかどうかにかかわらず、社会を変えるためのアクションに皆さんが取り組む際の参考にしていただけると幸いです。

脱炭素社会に変えていくためのアクション・リスト

2021年6月15日

Ⅰ. 消費者としての力を発揮しよう

私たちは日々の暮らしの中で、様々なことを「選択」しています。このとき一人一人が環境のことをできるだけ考えて「選択」することが、社会を変えていくことにもつながります。具体的には、買い物の際に、環境に配慮した商品やサービス、温暖化対策に力を入れている会社やメーカー、銀行などを選択するようにしましょう。

こうした環境に配慮した選択をする消費者のことを「グリーン・コンシューマー（緑の消費者）」と呼びます。脱炭素社会に向けて消費者としての力を発揮しましょう！

家電製品を選ぶ

一日何時間も使うような家電製品を、最新のものに入れ替えると大幅にCO₂を削減することができます。照明も白熱電球からLEDタイプに変えると電力消費量は1/10以下になります。また、これらの高性能な家電製品や照明は、少し価格が高くなることもあります。その分電気代が安くなりむしろ費用面でも得になります。特に消費量の多い冷蔵庫やエアコンなどは古くなったものは買い替えを検討してみましょう。

- ・ 照明器具をLEDに入れ替える
- ・ 古い家電製品を探して買い換える

<ポイント>

販売店では家電製品には、それぞれに省エネラベルがつけられています。省エネラベルには、省エネ性能や1年間使用した際の電気代が記載されているので、その情報を見て選びましょう。

食べ物を選ぶ

食べ物の生産・製造・流通・廃棄等の過程で出るCO₂の量は、世界の1/4にもなるとも言われています。例えば、畜産のためにはたくさんの工サとなる飼料が必要です。その飼料を育てるためにたくさんの肥料や水、エネルギーが使用されています。そのためお肉を食べることはたくさんのCO₂の排出にもつながります。また、化学肥料を製造するためにもその過程で大量のCO₂が排出されています。輸入製品の多い日本は、その輸送のためにもたくさんのCO₂を排出することになります。私たちが日々のなかで食べ物を選ぶことで食に関わるCO₂を少なくすることができます。

- ・ 産地や製造過程が見える食品を選ぶ
- ・ リジエネラティブ（脱炭素農業）、オーガニックなものを選ぶ
- ・ お肉の消費量を少なくする

<ポイント>

まずは買い物の際に近くでとれたものや国産、旬のものを選ぶようにしましょう。さらに食に関心のある人は、オーガニック食品やCO₂排出の少ない食品（生産や流通過程も含めて）を選んだりするようにしましょう。

乗り物を選ぶ

私たちが普段利用する乗り物の中でも、最も多くのCO₂を排出しているのが自動車です。特に自家用乗用車からのCO₂排出量が多く、自家用乗用車だけで交通に関するCO₂の約半分にもなります。飛行機やバス、鉄道などと比べても自動車のCO₂排出量は多くなります。日々の移動の時にどんな交通手段を選ぶかによってCO₂の排出量は変わります。自動車の利用を控えて、公共交通や自転車などに切り替えていきましょう。また、どうしても自動車を利用するのであれば、できるだけ使用時間や走行距離が短くなるように工夫しましょう。

- ・ 移動手段に自動車を選ばない
- ・ 公共交通や自転車を積極的に利用する
- ・ 自然エネルギーと組み合わせて電気自動車にする

<ポイント>

普段から徒歩や、自転車を利用している人の方が心筋梗塞や脳卒中、ガンなどの病気による死亡リスクが最大で41%も少なくなることが報告されています*1。健康のためにも普段からできるだけ自転車や徒歩で移動するようにしましょう。

公共交通機関が十分に利用できない地域や環境の場合には、燃費の良いハイブリッドカーやこれからは電気自動車を使うことも考えられます。

*1 Celis-Morales CA, et al. BMJ 2017; 357 doi (Published 19 April 2017)

II . 再生可能エネルギー100%に転換しよう

CO₂ゼロを実現するためには、省エネと合わせてCO₂を出さない再生可能エネルギーに転換していくことが重要です。日本の電力に占める再生可能エネルギーの割合は20%程度で、他の先進国（80~40%）と比べるとまだまだ低い状況です。再生可能エネルギーを増やしていくためには、家庭や地域で再生可能エネルギーの導入を進めエネルギーを作り出すことと同時に、再生可能エネルギーの電気や燃料、熱などを積極的に利用していくことが重要です。

パワーシフトする

日本でも2016年4月から始まった電力小売全面自由化によって、新しい電力会社が生まれるとともに、私たちの家庭でも電力会社を自由に選ぶことができるようになりました。これまでの電力会社から、再生可能エネルギーを中心とした電力会社に切り替えることは、電力からのCO₂を減らすとともに、私たちがどんなエネルギーを求めているのかを示すことにもつながります。気候ネットワークも参加している「パワーシフト」キャンペーンのHP (<https://www.power-shift.org>) を参考に電力会社を選んでみましょう。

- ・ 再生可能エネルギー中心の電力会社を選ぶ
- ・ 新しい電力会社を作る

<ポイント>

電力会社の切り替えは、携帯電話を切り替えるよりも簡単です。新しい電力会社に申し込みをしたら後の手続きは新電力会社が仲介して行ってくれます。これまでの電力会社に解約を申し出る必要もありません。また、より良い条件の会社が見つかれば積極的にパワーシフトしていきましょう。

再生可能エネルギーを応援する

太陽光発電を自宅に取り付けたくてもマンションなどで設置できない場合もあります。そういう時は「市民・地域共同発電」と呼ばれる、寄付や出資を集めて太陽光発電を設置する地域のプロジェクトがないか探してみましよう。太陽光発電だけでなく小水力発電や風力発電などのプロジェクトで出資金を集めているものもあり、これらのプロジェクトでは順調に稼働すれば一定の配当を受けることもできます。

- ・ 再エネプロジェクトに寄付する
- ・ 再エネプロジェクトに出資する

<ポイント>

最近ではインターネットを使ったクラウドファンディングで寄付を集めているものもあり、全国のプロジェクトに寄付や出資することができます。

再生可能エネルギーを設置する

日当たりの良い戸建て住宅に住んでいるなら太陽光発電が設置できないかを検討してみましよう。太陽光発電の価格は年々低下しており、最近では電力会社から電気を買うよりも安い価格で電気を作ることができるようになっています。

太陽光発電以外にも、太陽の熱を集めてお湯を作り給湯や暖房に利用する太陽熱利用（温水機）や、薪や木質ペレットを燃料にしたストーブを導入する家庭も少しずつ増えています。

- ・ 太陽光発電を設置する
- ・ 太陽熱利用
- ・ バイオマス暖房を取り入れる

<ポイント>

太陽光発電を設置すると停電時にも、太陽光発電が動いていれば発電した電気を直接使うことができます。

III. お金の流れを変えよう

銀行の貯金や生命保険の保険金、企業の株式など、私たちは様々なところにお金を預けています。銀行や保険会社は、私たちが預けたこれらのお金を元手にして、儲けの期待できる事業に貸したり投資したりして、利子や配当を受け取ります。こうして増えたお金を私たちに配当しているのです。銀行や保険会社が投融資しているプロジェクトの中には、儲けは大きくても環境を破壊したりCO₂を大量に排出したりするようなものも含まれていることがあります。つまり、自分が望んでいなくても私たちが預けたお金が、CO₂を排出することにつながってしまうかもしれないのです。そこで私たちも、こうしたお金の流れを考えて、銀行や保険会社を選ぶなど、自分のお金に責任を持つようにしましょう。

自分のお金に責任を持つ

銀行等の金融機関でもSDGsや気候変動問題を考えて投融資を行うものも増えてきました。まずは自分がお金を預けている銀行や保険会社がそのような方針を持っているかどうかを確認してみましょう。

- ・ サステナブルな投融資をする銀行に貯金のお金を預け替える
- ・ 自分の家族が加入している保険や年金などを扱っている会社の投資方針が脱炭素なものかを確認する

<ポイント>

どこに預ければいいのかがわからない時には、350.orgによる調査で化石燃料や原発産業への投融資が確認できなかった「銀行ランキング」(<https://350jp.org/lets-divest/>) を参考にしてみましょう。

脱炭素な企業を選ぼう

最近では、CO₂をゼロにすることや、再エネ100%に転換することを宣言する企業も増えていきます。自分が購入している製品やサービスを提供している企業でも、CO₂

ゼロや再エネ100%を宣言しているのを見て選ぶようにしましょう。将来自分が就職する時にも、そういった視点で企業を選んだり、株主になったりする機会があれば、脱炭素の視点で選ぶようにしましょう。

- ・ CO₂ゼロ目標や再エネ100%の目標を発表している脱炭素な企業の製品やサービスを選ぶ
- ・ 脱炭素な企業に就職する
- ・ 脱炭素な企業の株主になる

<ポイント>

どこに預ければいいのかがわからない時には、350.orgによる調査で化石燃料や原発産業への投融資が確認できなかった「銀行ランキング」を参考にしてみましょう。

<https://350jp.org/lets-divest/>

再エネ100%に取り組んでいる企業は、ここから確認してみましょう。

- ・ 日本のRE100参加企業（大企業）

<https://japan-clp.jp/climate/reoh>

- ・ 再生可能エネルギー100%宣言Re Action参加企業（中小企業、学校、自治体、団体など）

<https://saiene.jp/>

IV . 意思を表明しよう

脱炭素社会を実現するためには、多くの人の行動を変える必要があります。そのために必要なことは、自身が影響力を持つとともに、政治や政策を脱炭素社会と整合するものにしていくことが重要です。例えば、炭素税のようにCO₂を出すことに税金がかかるようになると、気候変動問題には関心がない個人や企業でも、必要以上のお金を払いたくないと考えて、できるだけCO₂を出さない行動をとるようになります。政治や政策を変えるためには、私たちがそういった政策を求めていることを日々発信し、選挙の際にはそういった政策を打ち出している政党や政治家に投票しましょう。

情報発信する（インフルエンサーになる）

Twitterやinstagram、facebookなどのSNSを使って自分の考えや、関心を持った気候変動に関するニュース、イベントなどの情報を発信・シェアしましょう。

- ・ 家族や友達に気候変動について話してみよう
- ・ SNSで発信する
- ・ 動画を作ってみる

<ポイント>

家族や友達に気候変動のことを話すのが難しい時は、気候変動に関する動画や映画を家族や友達と一緒に観て、感想を話し合ったりするのも一つの方法です。

グレタトゥーンベリさんの動画（TED）：https://www.ted.com/talks/greta_thunberg_the_disarming_case_to_act_right_now_on_climate_change?language=ja

アクションに参加する

気候ネットワークのような環境NGOや市民団体などが呼びかけている気候変動に関する「アクション」に参加してみましょう。インターネットでの署名やSNSを使ってみんなで一斉に投稿をするキャンペーン、先に紹介したパワーシフトのように、わかりやすく誰でも参加できるアクションがあります。

- ・ オンライン署名に協力する
- ・ FFFのマーチやSNSアクション
- ・ 環境裁判の原告になる

<ポイント>

インターネット署名やSNSアクションなどは参加しやすく、合わせてあなたが参加したことをSNSなどで紹介すれば、友人や知人にも広がるのが期待できます。

仲間づくり

気候変動のために何かしたいと思っても、自分一人で行動を始めることは難しく感じるかもしれません。そこで友達や知り合いに同じような関心を持った人がいないか探してみましょう。

- ・ 友達や知人と一緒に気候変動に関する動画や映画を見る

- ・ 環境サークルを作る
- ・ NGOのメンバーになる、会員になる

<ポイント>

学校に環境サークルがあればそこに参加したり、環境NGOや団体のイベントに参加したり会員やボランティアをして仲間をつくることもできます。

選挙で投票する/出馬する

気候変動に関する新しい政策や仕組みをつくるのは政治家、議員などの役割です。彼らが自分の役割をしっかりと果たしているかどうかをチェックして、選挙の時には気候変動に関する政策をしっかりと打ち出している政治家や政党に投票しましょう。

- ・ 政治選挙で気候変動に関する政策を打ち出している候補者に投票する
- ・ 学校での役員選挙で気候変動に関する意識の高い候補者に投票する
- ・ 生徒会選挙に自ら出馬して気候変動対策を目標の一つに掲げる

<ポイント>

選挙権は18歳からですが、学校での生徒会選挙などでも環境に関する目標を掲げて取り組むこともできます。長野県飯田市の中学校では、自分自身が「学校に太陽光発電を設置する」などの方針を持って生徒会役員選挙に当選した中学生もいるので、皆さんも自分の立場でできることの一つとして考えてみましょう。